

3 時限目

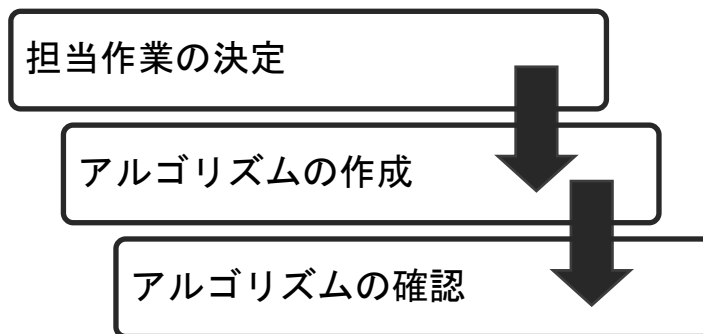
実施内容

- ・各部品のアロリズムを考えよう

ここからは、チームが主体となって開発を進めます。3時限目～5時限目では、システムに必要な各部品のアロリズムを考えましょう。

各部品のアロリズムを考えよう

販売管理システムの各部品のアロリズムを、次の手順で作成します。



担当作業の決定（3時限目）

各メンバの担当作業（部品A～部品D）を決定します。

アロリズムの作成（3時限目，4時限目）

担当する部品のアロリズムを考えて，フローチャートを作成します。

アロリズムの確認（5時限目）

作成したフローチャートに誤りがないか，メンバ間で確認します。

次の表にしたがって各自，作業を進めてください。

担当作業	参照ページ
部品A「顧客検索」	18ページ
部品B「商品取得」	22ページ
部品C「注文登録」	26ページ
部品D「注文確認」	30ページ

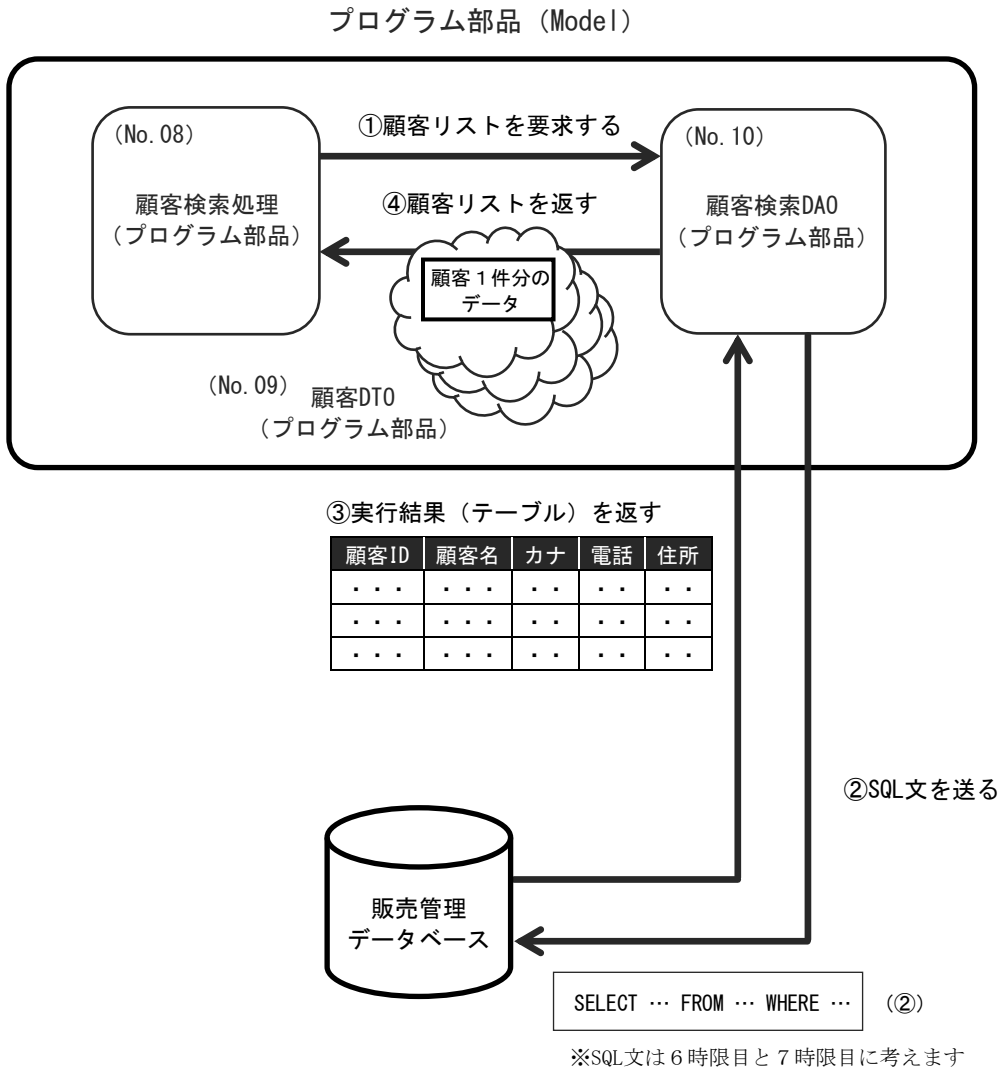
今回の予定確認

作業を行う前に、次の項目について5分程度で確認しましょう。また、確認した内容は「予定確認メモ」に記録しておきます。

- ・前回の作業の申送り
- ・今回の作業予定の確認
- ・その他（チーム運営の工夫など）

予定確認メモ		
実施日時	月 日 () 時限	
参加者		
<p><前回の作業の申送り></p> <p><今回の作業予定の確認></p> <p>メンバ名：</p> <p>メンバ名：</p> <p>メンバ名：</p> <p>メンバ名：</p> <p><その他></p>		

部品 A 「顧客検索」のアルゴリズムを考えよう



- ① 利用者から入力された電話番号・カナを顧客検索DAOに送り、顧客リストを要求します。なお、電話番号・カナの両方が入力された場合は、電話番号で検索を行います。
- ② 受け取った電話番号・カナに該当する顧客を検索するSQL文をデータベースに送ります。
- ③ SQL文を実行して、実行結果 (テーブル) を顧客検索DAOに返します。
- ④ 実行結果 (テーブル) を行単位に分割して、顧客のデータを顧客DTOとして顧客検索処理に返します。

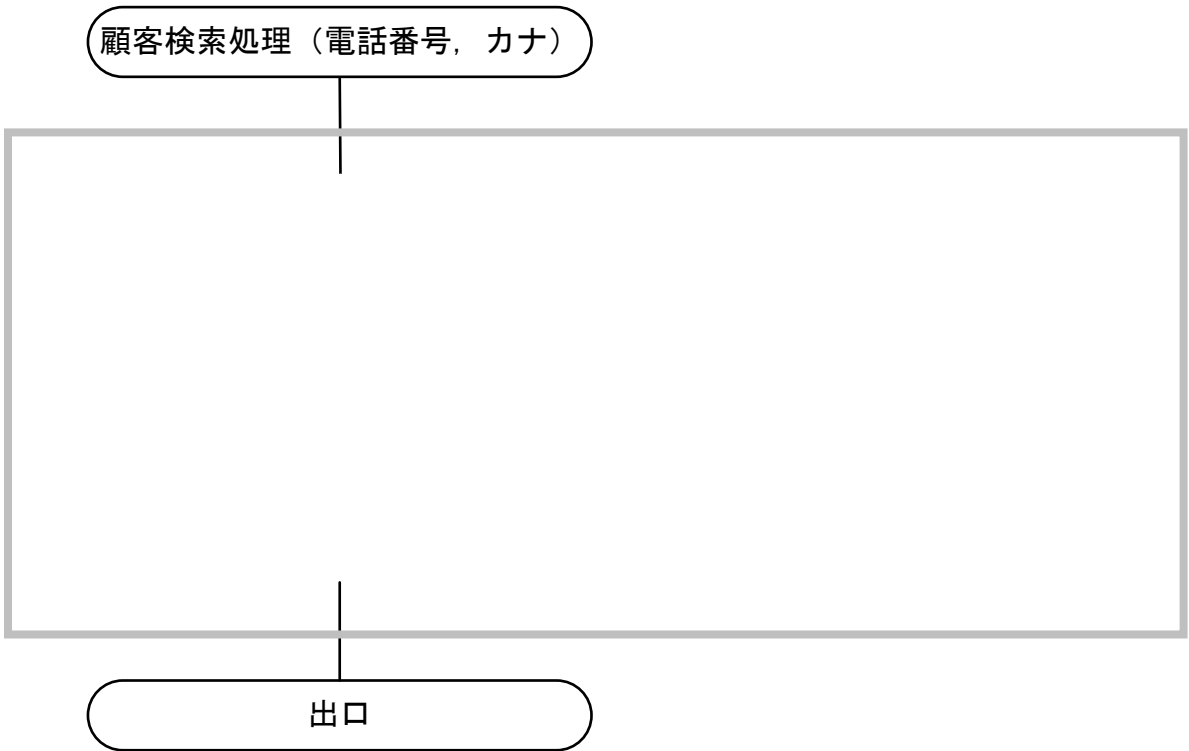
顧客検索処理

顧客検索処理は、最初に、呼出し元（受注管理制御）から引数「電話番号、カナ」を受け取ります。

次に、引数「電話番号」が空白でない場合は、顧客検索DAOに電話番号に該当する顧客リストを要求します。そうでない場合は、カナに該当する顧客リストを要求します。

最後に、呼出し元に顧客リストを返します。

このアルゴリズムを考えて、灰色の枠内にフローチャートを記入して完成させましょう。



顧客DTO

顧客DTOは、顧客1件分のデータ（顧客ID、顧客名、カナ、電話番号、住所）と、データを扱う処理（コンストラクタ、セッターメソッド、ゲッターメソッド）で構成されるプログラム部品です。なお、セッターメソッドとゲッターメソッドは、データ（インスタンス変数）1個につき一組作成します。

メソッド	処理内容
コンストラクタ	引数の値（顧客ID、顧客名、カナ、電話番号、住所）を受け取って、各インスタンス変数に記録します。
セッターメソッド	引数の値をインスタンス変数に記録します。
ゲッターメソッド	インスタンス変数の値を返します。